

1 学期始業式 式辞 ((平成 29 (2017) 年 8 月 25 日 (金))

生徒の皆さんの元気な声と姿が校内に戻ってきました。

皆さんはもちろんのこと、私たち教職員も、今日からの学校生活を、気持ちも新たにスタートします。

夏休み前の終業式では、普段時間の制約があってできないことにどんどんチャレンジしてほしいこと、たくさんの後輩がこの北高に入学してくれるよう、北高生の元気な姿を中学生や地域の人に見せて欲しいことの2つについてお願いしました。

みなさんは、この夏休み、どのように過ごされたのでしょうか。

終業式ではまた、みなさんに“楽しい、うれしいことの多い1学期だった”というようなお話をしましたが、この夏休みの間にも、私自身が北高の教員であることを、誇りに感じる多くの機会がありました。

暑い中、課外に、部活動に多く生徒が汗を流していました。

ボランティア研究会を中心に、そして、今年は野球部など、多くの生徒が夏祭り、梨の選果作業、白滝荘での清掃活動、ブラタモリなどの地域と連携した活動や貢献活動に取り組んでくれました。その様子は、新聞などでもとりあげていただきました。

新聞に名前こそ載り損ねましたが、1学期に3年生が取り組んだ俳句。その代表として、峯君が出場した下関の長府で行われた俳句相撲では、年齢を問わず多くの俳句愛好家が出場される中で、ベスト4。会場のみなさんから高い評価をいただいたと聞いています。

多くの地域の方が君たちの姿に直接接する中で、北高生の活躍に驚き、直接私に感謝の言葉を届けてくれています。

そんな皆さんの姿は、中学生にも届いているのかもしれませんが、学校説明会には、昨年度の説明会と比べ倍近い96人の中学生が参加してくれました。

昨年度よりも参加者が大幅に増えた菱海中学校の校長先生が言うておられました。「後輩は、先輩が北高でがんばっている姿を見えていますから。」と。

その説明会では、本校としては初めて、豊北高校と魅力と新高校の特色を生徒たちの言葉で中学生に紹介してくれました。

3年生の2人は、当日、38度以上の熱があり、体調が優れなかったようですが、暑い体育館で、新制服を着て、やり遂げてくれました。その責任感に、敬意を表するとともに心から感謝します。その姿は、素晴らしい先輩として、中学生にきっと伝わっていると思います。

来年の1年生の入学定員が105名ですので、これから、さらに、生徒の皆

さんの力も借りながら、一丸となって、本校の魅力、生徒の素晴らしさを伝え、多くの後輩たちをこの北高に迎えたいと思っています。

中でもうれしかったのが、お子さんが豊北中学校に通っているある保護者の方の言葉です。「北高生は、前から、よく挨拶してくれていたけど、前は、少し照れているというか、もじもじしているような挨拶だったのが、最近は、変わった、明るく、本当にさわやかな笑顔で挨拶をしてくれる」

言葉に笑顔をそれるだけで、同じ話をしても随分と変わってきます。自分自身も受け止める相手も変わるということです。

4月以降の、様々な行事を積み重ねている中で、一人ひとりが自然に笑顔になれる、そのような変化が生まれているとしたら、これ以上の嬉しいことはありません。

この週末、本校では体育祭が行われます。ある学校の体育祭の話です。準備体操が終わり、「もとのたいけいに戻れ」という号令に、生徒たちの後ろの保護者席から、あるお母さんが一言「無理。私は戻れない」

残暑厳しき折、少し、涼しくなる話だったかもしれません。

戻りたくても戻れないのは、体型だけではありません。青春とは気持ちの持ち方しだいとは思いますが、青春もその一つでしょう。

かけがえのない青春の一日一日、北高で日々繰り返す学校生活の中で起こる様々な出来事、そこに笑顔や笑いを心がけることができれば、もっとスムーズに、そして温かで心豊かな関係が生まれるはずです。

いたずらに苛立たず、人を傷つけず、常にその言葉を受け止める相手の気持ちを考えて、時には言葉も選びながら、そんなことも、大人になる一歩手前の高校生のみなさんには、考え、身に付けて欲しいものです。

まずは、この週末に行われる体育祭を成功させたいものですが、この体育祭を北高と皆さんのさらなる飛躍の機とし、北高生の笑顔、元気、そして笑顔を保護者や地域の方に届けて欲しいと思います。

それらは、何年か後に、思い出というものに形を変えて、皆さんが長き人生を力強く歩んでいく大きなエネルギーとなるものです。

今日からまた主役である生徒の皆さんを迎え、学校が動き始めます。

夢や目標の実現に向け、いよいよ正念場を迎える3年生、その背中を見て、歩みを進めている2年生、そして、歩み始めた1年生の皆さん。悩みや不安、焦りなどもあるでしょうが、だからこそ、自分と他人を大切に、笑顔で、これからの日々を過ごしていくことを確認し、新たなスタートに当たってのあいさつとします。